
魔王（わたし）の勇者様

闘我

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王の勇者様

【Nコード】

N6751I

【作者名】

闘我

【あらすじ】

俺は、氷室蓮。勇者だ。

聖剣で今まで5人の魔王を倒し、5つの世界を救ってきた。仕方ないさ…勇者として神様に選ばれた以上もうどうにもならんらしい。

でもさ…今回俺を召喚したのが魔王ってどういう事！？
しかもその魔王が美少女ってどういう事！？

んで、自分を殺しにくる勇者から守ってほしいってどういう事！？
勇者と魔王のドタバタラブコメデー

序章 魔王討伐しました（前書き）

もう1本なのはの二次創作もしてるのに2本目に手を出す愚か者の闘我です。

この、小説は自称勇者と魔王のラブコメです。

主人公、蓮はすでに5回魔王を殺している為RPG風に言えばレベルは既にカンストしてます。

要するにこれまた最強主人公設定です。

そんな設定他の小説で間に合ってるわ！！という人やそんな厨臭い主人公は嫌だという方はご注意ください。でも見てくれると嬉しいです。

文章はあまり、上手くないので、アドバイスとかあったらよろしく願います。

序章 魔王討伐しました

メンドクせえ

もう嫌だ…。

そう思いながら、俺氷室蓮ひむろれんは目の前のいかにもラスボスくさい黒い肌の色をした見た目人間のどてっ腹に聖剣を振り下ろす。

両手に肉を斬り裂く感触と耳に骨を叩き斬る嫌な音が響くが知ったこっちゃない。

「ぐっ…さすが勇者。この我を倒すとは」

「うるさい、黙れ」

そのまま、力を込め一気に聖剣を振り下ろす。緑の血が勢いよく噴出する。

うん、やっぱ人間じゃねえ。返り血浴びるが気にしない。

こいつが存在する所為で俺は呼び出されたんだ。

要するにこいつさえ死ねば俺は元の世界に帰れるんだああああ！

！！

「カツ…ハッ!?!」

口から血反吐吐いて地面に這い蹲る「魔王」

ざまあwww

察しの良い人なら分かるだろう。今俺が殺してるのは、この世界を恐怖のどん底に陥れてくれたハタ迷惑な魔王という存在だ。

「…貴様のその我を斬る時の顔、クツ…貴様の方が魔王に向いてい
るかもしれんな」

「うるさい。黙れ」

「かはっ…!!!」

這い蹲る背中に問答無用で聖剣を突き刺し柄をグリグリと押し込む。笑いたくもなるわ。初撃でくたばりそうな魔王の相手してんだぞ？拍子ぬけだわ!!!この程度なら俺を呼ぶな!!!あの糞爺共が!!!

「グツ…カツ…」

痛そうだなあ…。うん。俺も1回目の勇者やった時はこんな事する様な人間になると思ってたよ。

あん時は俺も若かったなあ…。今でも若い。17よ？まだ俺。童貞丸出しでさ、世界を救わなければみたいな妙な責任感に囚われてよ。

今考えたら、アホだな俺。何で俺が世界を救うなんて大層な事せねばならんのだ。

んなもん、その世界の人間がやれよ。

困ったら異世界から勇者召喚でどんだけやる気ねえんだよ？

ちったあ…根性出して自分等で何とかしろよ…。

「思いだしたらムカついてきた…!!!」

「ギヤああああ!!!止めて!!!聖剣刺したまま柄を何度も叩かないでえええええ!!!」

バンバン杭を打つ様に右手を柄に叩きつけたら、魔王が泣き出した。ウザ…。

「良いからもう死ねよ。魔王おまえが死ねばこの世界はハッピーエンドで俺は、この世界から解放されるんだ皆ハッピーになれるんだよ」

「くっ…このまま死んでたまるか。せめてお前に一矢報いるまでは

…」

「生意気な事ぬかすな。そんな力ねえだろ？ホラ死ね！！今すぐ死ね！！マツハで死ね！！」

両手から聖剣へ魔力を込めると刀身が光り輝きだし、突き刺さった魔王の体から、ジユウジユウ言いながら焼肉が如く魔王の肉体を焦がしていく。

「上手に焼けましたっつてか？」

「ぐおおおお…こつなつたら禁断の術だ！！はあ！！！！」

何？禁断の術だ！？

…ん？魔方陣？俺の足元に魔方陣が展開されている。

こんな術式見た事ねえぞ！！つて…気持ち悪っ。魔方陣が俺の足に吸収されていく。

熱っ…！！！！

両足が滅茶苦茶熱い。

「テメエ…何しやがった！！！！」

「ふふふ…お前がこの俺を倒しても第二第三の」

「聞き飽きたわ！！！！」

「アツ…！！！！」

一瞬で聖剣の輝きが増すと魔王の肉体を塵一つ残さず消滅させてしまった。

…やっちまった。聞き飽きた台詞を言うもんだから。

遂力が入っちまった！！！！

「まつ…良いか。あんな弱い魔王がこの俺に何か出来る様な呪をかけたとは思えん」

熱かった足も今は何の問題がない。

気にしない。気にしない。病は気からって言うしな。

俺がかかってないと思えば呪にはかからんだ。うん。

「うん。帰るか。えーと俺の世界に帰る魔方陣はつと…。あつ！！
あつたあつた」

大抵魔王を倒せば近くに元の世界への転移魔方陣が展開される。

慣れたもんだ。だってこれで俺は魔王という存在を5回消した事になるからだ。

まあ、呼び名は色々違つが要するにその世界のボスみたいなのを殺してきてる訳だ。

これで、暫くは召喚まよひは無いだろう。あゝやっと日常に戻る。

でも、なんか今回は変だな。

魔方陣が黒い。

うん。いつもはガ ダムのビームサーベルみたいな色してんだけどな…。

「まあ…良いか。病は気から俺が問題ないと思えば問題ない！！ん
じゃ、さくつと帰るか」

そう言つて魔方陣に1歩踏み出した時だ。

「「見つけました…。私の勇者様」」

頭の中に声が響く。女の声だ。

…おい！！連続出張かよ！！

こんな事初めてだぞ！！

「「やっと…やっと…見つけた。私だけの勇者様」」

おい聞いてんのか!!

って魔方陣がもう発動してる!?

このっ、足が動かん!!

「ちくしょー!! 帰ってペ ソナ₃ポータルやらせるおおお!!
!!」

そう叫ぶと同時に俺はこの世界から別の世界へ飛ばされた。
言いたかないが…不幸だ。

序章 魔王討伐しました（後書き）

魔王は次回に登場します。^{ヒロイン}

近い内にUPしますんでよろしくお願ひします。

後、蓮がどんな世界を旅したかも近い内にUPしようかと思っ
てます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6751i/>

魔王（わたし）の勇者様

2010年10月9日02時05分発行